様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成２３年５月１０日現在

機関番号：１７１０２
研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2008～2010
課題番号：２０３３０１０４
研究課題名（和文）　東アジア階層モデルの探究

研究課題名（英文）　Study of an East Asian Stratification Model

研究代表者
三隅　一百（MISUMI KAZUO）
九州大学・大学院比較社会文化研究院・教授
研究者番号：８０１９０６２７

研究成果の概要（和文）：
職業と教育を中心とした不平等の東アジアを基点とした国際比較研究を進めるために、計量調査にもとづいて東アジア的特徴を分析するための視点、概念、方法論の工夫を行い、それを東アジア階層モデルとして提示した。高学歴化と急速な後発産業発展を共通枠組みとしながら、同時に教育制度、労働制度や経済組織、ジェンダー、社会集団などに関する歴史的・制度的相違の影響を捉えることが、東アジアの特性を捉えるために重要である。

研究成果の概要（英文）：
In order to develop international comparative study of occupational and educational inequality from the standpoint of East Asia, we proposed an East Asian stratification model in which we developed perspectives, conceptions, and methodology for effectively analyzing East Asian properties based on survey data. Within the common framework of educational expansion and rapid late-industrialization, it is important to evaluate influences of the historical and institutional differences with regard to educational institutions, labor institutions and economic organizations, gender, and social groups.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００８年度	4,800,000	1,440,000	6,240,000
２００９年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
２０１０年度	4,500,000	1,350,000	5,850,000
年度			
年度			
総　計	13,500,000	4,050,000	17,550,000

研究分野：社会学
科研費の分科・細目：社会学・社会学
キーワード：社会階層、社会移動、階級、東アジア、職業、教育、不平等

１．研究開始当初の背景

計量的階層研究は、世代間移動に係わる階層的機会構造を普遍的に重要な不平等問題として位置づけ、早くから国際比較研究に取り組んできた。近年、階級的視点を取り込んだ標準的な職業・教育コード（CASMIN）が普及し、グローバリゼーションのもとで改めて産業社会の来し方行く方を問い直すべく、非西欧諸国を含む国際比較研究が盛んになってきている。その中で、東アジアに焦点をあ

てた比較階層研究も、厳しい社会調査の実施環境を切り開きながら、着実に進んできた。けれども、まだ各国の現状把握がやっとで、実質的な国際比較となると蓄積は浅い。

そうした中、代表者は、日本・韓国・台湾を対象とした 2005 年社会階層と移動調査（SSM）プロジェクト（平成 16-19 年度特別推進研究）に参加し、主に方法論的な観点から東アジア階層比較の問題を考えてきた。計量調査といえども国際比較となれば、国単位の事例比較の視座が不可欠である。その視座を構成する軸を、プロジェクトの研究会や日本社会学会テーマセッション等を通じて検討してきた。その結果、産業化の条件、職業の制度的・構造的背景、教育の制度的背景と機能、職業観や格差意識、ジェンダーと世代等に着目して、西欧社会の階層比較のフレームワークとは異なる視座や分析の工夫を行う必要性が認識された。それをふまえて、より実質的かつ体系的な東アジア階層研究フレームワークを構築したいと考えたのである。

２．研究の目的

比較階層研究フレームワークの再検討を通して、東アジア階層モデルの構築をめざす。すなわち、2005 年 SSM が収集した日本・韓国・台湾の調査データを主に用いて、東アジアの階層的機会構造の異・同を適切にとらえる階層論と分析モデルを構築する。

３．研究の方法

本研究における東アジア階層モデルの提示は、二段構えをとる。第一に、東アジア階層比較のために妥当な国際比較方法論を提示する。この方法論は、職業、事業所の形態、雇用慣習、労働市場、教育制度等の比較を考慮したコーディング問題を含む、分析モデルである。第二に、その分析モデルに準拠して 2005 年日本・韓国・台湾 SSM データを分析し、階層的機会構造に特徴的にみられる異・同を明らかにする。同時に、他の関連する国際データも活用しながら、それらの異・同を説明する解釈仮説を検討する。これらを総合して東アジア階層モデルを提示する。

４．研究成果

交付期間の研究成果は、大きく以下の 4 点にまとめられる。

(1) 東アジア階層モデルでは、産業化の条件としての急速な高学歴化と、それを支える教育制度という視点が、重要であることが示された。この視点は、教育と労働市場の制度的関係として従来から着目されてきたが、本研究ではむしろ東アジア内部の相違に着目することの重要性が示された。そこで展開された解釈仮説を含めて具体的にいえば、以下のようなことである。a) 高等教育化が始まった離陸時期とそのスピードの違いに応じて、労働市場再編のあり方が異なる。また、徴兵が就学～就労のどの段階で入ったかによる影響にも、注意が必要である。b) 入試制度による選別方法の違いや、学校間格差の編成のされ方の違い、また、公立／私立の制度発達の歴史等が、教育機会の不平等に一定の相違をもたらす。

(2) 東アジア階層モデルでは、急速な産業発展を共通視点としつつ、そのタイミングやスピード、その過程で発達する経済組織の規模や組織間関係、内部労働市場のあり方等に関する相違に着目することの重要性が示された。そこで展開された解釈仮説を含めていえば、具体的には以下のようなことである。a) 東アジアは概して自営層の分厚さを特徴とするが、自営業をめぐる労働移動や世代間職業移動のあり方は、上記のマクロな経済組織や雇用構造のあり方に応じて異なる。b) 産業化の時期によって国際類型比較を行うとき、各国に固有の産業変動の影響を含み込んだ事実移動が示す社会的流動性のトレンドに着目する方が、東アジアの特徴を相対化するマクロ変動論的視座が得られやすい。

(3) 東アジア階層モデルでは、教育制度や労働市場における比較的強固なジェンダー・バイアスを共通視点としつつ、それが人びとの職業・教育機会に作用する仕組みの相違に着目することの重要性が示された。そこで展開された解釈仮説を含めて具体的にいえば、以下のようなことである。a) 日本と韓国は女性就労の M 字カーブとして類似した特徴をもつが、その生成プロセスは異なる。すなわち、教育達成にジェンダー・バイアスが世代間で影響する仕方は異なるし、結婚・出産と非正規労働が結びつくあり方も異なる。b) 台湾は日本や韓国のように明白な M 字カーブを示さないが、分厚いマニュアル層の持続的就労にジェンダー・バイアスが働いている問題が示唆される。

(4) 東アジア階層モデルでは、ソーシャル・

セーフティネットや社会ネットワーク（社会関係資本）等、従来の階層研究では周辺的だったテーマが、中心的課題になりうることが示された。そこで展開された解釈仮説を含めて具体的にいえば、以下のようなことである。a）東アジアでは概して、社会関係資本を媒介にした社会移動や地位達成が活発であるが、そのことは機会の平等の考え方に対して重要な理論的示唆を与える。その媒介プロセスの違いは、教育制度や家族制度と関連しつつ、不平等の生成と再編に異なる影響をもたらしている可能性がある。b）東アジアは、職業生活を離脱した後の生活基盤に関して、概して家族主義が強い反面、扶養意識や社会保障制度・福祉制度の違いも大きい。そうした異同を含めて不平等や格差の問題を考えるために、老後生活を見込みながら現時点の階層状況を捉える生涯的地位概念が重要である。

以上に示される東アジア階層モデルは、東アジア階層研究のフレームワークとなると同時に、従来の西欧基点の階層国際比較研究に対してさまざまな論点を提示しうる。すなわち、標準的な職業分類にもとづく移動レジームのような大掴みの国際比較に整合的な方法で、しかしながら職業と教育に関わる諸制度とその運用のされ方にもとづく差異を適切に捉え、それを計量的国際比較のフレームに反映させていく、そうした分析モデルを提示している。

ただし、モデルとしての体系化には課題を残している。とくに、1 つの調査設計の中にこのモデルを集約するためには、今回のように二次分析だけでなく、そのための調査を別途に実施して吟味すべきことが多いと思われ、今後の大きな課題である。

今後の展開を含めて、国際的に本研究の意義を問うべく、以上の成果を英語による図書およびそのＣＤ版（下記５〔図書〕①）として公表し、国内外からいくつかの好意的なコメントを得た。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）

①三隅一人、社会関係資本と階層研究―原理問題としての機会の平等再考、社会学評論、査読有、59巻4号、2009年3月31日、pp.716-733［英訳して図書①に収録：Misumi, Kazuto, Social Capital in Stratification Research: Equality of Opportunity Reconsidered as the Fundamental Problem.］

②Misumi, Kazuto, Gender Bias in Branching Employment Sequence: A Comparative Study between Japan and Korea, 比較社会文化、査読有、15巻、2009年3月25日、pp.59-74

〔学会発表〕（計１３件）

① Ishida, Hiroshi and Satoshi Miwa, Comparative Social Mobility and Late Industrialization, The Workshop of the Center for Research on Inequalities and the Life Course (Yale University, 14 January, 2011)

② Kanbayashi, Hiroshi and Hirohisa Takenoshita, Reasons for Turnover and Job Mobility Outcomes in Japan and Taiwan: Variations within Voluntary Mobility, 第83回日本社会学会大会(2010年11月6-7日，名古屋大学)

③三隅一人・木村好美，老後の生活リスクからみた社会的弱者の所在，第 83 回日本社会学会大会（2010 年 11 月 6-7 日，名古屋大学）

④太郎丸博、正規/非正規雇用賃金格差の日韓台比較、第83回日本社会学会大会・日韓ジョイントパネル（2010年11月6-7日、名古屋大学）

⑤Aizawa, Shinichi, Mother's Exit from Public Schools in Japan, The 3rd International Bamberg Summer School in Empirical Education Research (University of Bamberg, 21 September , 2010)

⑥ Aizawa, Shinichi, New Discrepancy between the Meaning of Schooling in Individual Perceptions and the Function of Diplomas in the Japanese Society, The 17th World Congress of Sociology of the International Sociological Association (Gothenburg, 11-17 July, 2010)

⑦Ishida, Hiroshi and Satoshi Miwa, Social Mobility among Late-industrializing Nations, The 17th World Congress of Sociology of the International Sociological Association (Gothenburg, 11-17 July, 2010)

⑧Yamato, Reiko, A Comparison of Women's M-shape Curves between Japan and Korea: With Regard to the Impact of Different

Social Policies, The 17th World Congress of Sociology of the International Sociological Association (Gothenburg, 11-17 July, 2010)
⑨相澤真一、現代日本における地位達成過程とアスピレーション、第58回関東社会学会大会 (2010年6月20日、中央大学)
⑩三隅一人, 社会階層とセーフティネットによる生涯的地位概念, 第118回日本社会分析学会例会(2009年12月19-20日, 九州大学).
⑪ Misumi, Kazuto, Social Capital and Equality of Opportunity: A Comparative Study between East Asian Countries, 2009 Spring Meeting of Research Committee 28 of the International Sociological Association (Beijing, 14-16 May, 2009)
⑫三隅一人、社会関係資本と職業機会―国際比較の視点から、第115回日本社会分析学会例会(2008年8月9-10日, 福岡大学)
⑬Misumi, Kazuto, Gender Bias in Branching Employment Sequence: Forward Comparative Study between Japan and Korea, 2008 Spring Meeting of Research Committee 28 of the International Sociological Association (Florence, 17 May, 2008)

〔図書〕(計１件)
①Misumi, Kazuto (ed.), Grant-in-Aid for Scientific Research (B), *Study of an East Asian Stratification Model*, 28 February, 2011, p.200

〔その他〕
ホームページ等
http://scs.kyushu-u.ac.jp/~kmisumi/index.html

６．研究組織
(1)研究代表者
三隅　一百 (MISUMI KAZUO)
九州大学・大学院比較社会文化研究院・教授
研究者番号：８０１９０６２７
(ペンネーム：三隅　一人　MISUMI KAZUTO)

(2)研究分担者
石田　浩 (ISHIDA HIROSHI)
東京大学・社会科学研究所・教授
研究者番号：４０２７２５０４

(3)連携研究者
有田　伸 (ARITA SHIN)
東京大学・社会科学研究所・准教授
研究者番号：３０３４５６５１
(2008-2009年度は研究分担者)
岩間　暁子 (IWAMA AKIKO)
立教大学・社会学部・教授
研究者番号：３０２９８０８８
神林　博史 (KANBAYASHI HIROSHI)
東北学院大学・教養学部・准教授
研究者番号：２０３４４６４０
竹ノ下　弘久 (TAKENOSHITA HIROHISA)
静岡大学・人文学部・准教授
研究者番号：１０４０２２３１
太郎丸　博 (TAROMARU HIROSHI)
京都大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号：６０２７３５７０
中村　高康 (NAKAMURA TAKAYASU)
大阪大学・人間科学部・准教授
研究者番号：３０２９１３２１
林　雄亮 (HAYASHI YUSUKE)
東北大学・大学院文学研究科・研究支援者
研究者番号：３０５３３７８１
三輪　哲 (MIWA SATOSHI)
東北大学・大学院教育学研究科・准教授
研究者番号：２０４０１２６８
大和　礼子 (YAMATO REIKO)
関西大学・社会学部・教授
研究者番号：５０２４００４９

(4)研究協力者
相澤真一 (AIZAWA SHINICHI)
東京大学・社会科学研究所・日本学術振興会特別研究員 PD
多喜弘文 (TAKI HIROFUMI)
同志社大学・大学院社会学研究科・博士課程